



令和7年1月21日（火）14:30～16:40 郡山市役所 正庁

【実践発表】 富久山幼稚園

遊びや生活を通して育まれる資質・能力について～学びの連続性を見通したアプローチカリキュラムの実践～
就学に向けた幼保と小の情報共有について



富久山幼稚園は昭和39年に開園し、歴史のある幼稚園で貴重な建築物もあります。「共遊共生」を建学の精神とし、友達と遊ぶ中で楽しさを基盤として集団生活の約束を知り、「社会性、協調性」を培っています。実践発表では「学びの連続性」と「非連続性」について着目しました。アプローチカリキュラムを実践するには「学びの連続性」を見通す必要があり、入学時に円滑に繋げることで子どもの発達が段階を経ていく。学びの連続が上手くいかなければ、発達の危機にもなるということです。このことを踏まえて、本園では、保育に関わるねらい及び内容である「5領域」を踏まえて、特色ある保育を行っており、外部講師による体育遊びやサツマイモ等野菜の栽培を実施しています。これらを通して生きる力の基礎を育てています。小学校との情報共有については、気になる子の支援を家庭や専門機関と連携しているが、小学校との縦の繋がりも深めたい等、課題についても明確にしておりました。

【協議会】 グループ協議で発表に対する感想・意見交換が行われました。



☆ 富久山幼稚園の発表について

- ・とても丁寧に様々な保育活動を行っており、体験することや実際に触れることを大切に、幼児教育を進めていることが分かりました。小学校でも、この経験を生かして学習に繋がりたいと思いました。
- ・学びの連続性について勉強になりました。保育活動のねらいや目的を明確にして、非連続とならないようアプローチカリキュラム実践し、スタートカリキュラムへ接続したい。

☆ 「幼保小の架け橋プログラム」に期待することについて

- ・「気になる子の支援」「保護者対応」「小1プロブレムの実態と具体的対応」「アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムの活用状況」の視点で話し合いました。「幼保小の架け橋プログラム」の考え方にもあるように、幼保と小が対話することで現状や保育・教育の内容を相互に理解出来るので、まずは話し合うことが重要ではないかと意見が出ました。

《参加者からのアンケートから》

- ・保護者は子育ての中で余裕がない様子が伺えましたが、学校や園、保育所もお互いに丁寧に寄り添いながら信頼関係を築いて対応していくことが大切であることが分かりました。幼稚園、保育所の先生方の傾聴の姿勢は参考になりました。（小学校：参加者）
- ・校長先生や園長先生、ベテランの先生方と話が出来て、今後に生かせることがたくさんありました。年長組の担任になった際に活用できる知識も得ることが出来ました。（認定こども園：参加者）

「協議会だより」は総合教育支援センターのウェブサイトにも掲載いたします。